

インターバンクの声（2017 年 11 月 14 日）

東京市場の午後、円相場は短時間で 113 円 30 銭台まで円買い・ドル売りが進んだ。その後、ロンドン市場でも米長期金利の低下が続き、欧州株価も軟調となったことから、さらに 113 円 20 銭台まで円が強含んだ。ニューヨーク市場の朝方も円買いが続くような気配だったが、昨日も米長期金利の反発がドルの買い戻しを誘い、東京市場午後の円買いに動き出す前の 113 円 60 銭台の水準に戻した。もともと、昨夜のロンドン市場からニューヨーク市場の序盤にかけて活発に取引されたのは英ポンドや相対通貨のユーロだった。英与党・保守党議員 40 人が、メイ首相に対する不信任を突き付ける造反に動くとの報道が伝わり、金融株を中心に株価が 6 週間ぶりの安値まで値下がりした。ポンドも一時は先週末の高値から 160 ポイントも下落する場面もあった。英国の欧州連合 (EU) 離脱を巡って先行きが再び不透明になっており、市場にポンド安の見方が広がっている。1.30ドル台中盤を下抜けると、8月下旬に付けた 1.27ドル台まで下げる可能性もある。ストップロスに近いポイントに置きながらポンド売りに賭けるのも面白いかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。